

【補足資料】岩槻新校基本計画検討委員会（第1回） 議事詳細

- 1 日 時 令和4年12月13日（火） 午後3時開会
午後4時35分終了
- 2 会 場 県立岩槻高等学校会議室
- 3 出席委員 栗藤委員長、伊藤副委員長、前島副委員長、鷺田委員、松田委員、式田委員、渡辺委員、持田委員、池田委員、赤池委員、山谷委員、横山委員、大場委員、中澤委員、三宅委員、水谷委員、大沼委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 坂本、高辻
- 5 協 議 「岩槻新校基本計画検討（案）」について
栗藤委員長 それでは、協議に入ってまいります。まず、事務局の方から、この委員会の性格等について説明をお願いしたいと思います。
事務局 （新校基本計画検討委員会について、今後のスケジュールについて説明）
栗藤委員長 事務局から説明がありましたが、何か御質問等がございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、資料1、魅力ある県立高校づくり第2期実施方策に関して、事務局から説明をお願いします。
事務局 （魅力ある県立高校づくり第2期実施方策について説明）
栗藤委員長 実施方策について、説明がございました。昨年10月に策定され、県民の皆様既に公表している内容となっております。何か質問等がありましたらお願いします。よろしいでしょうか。それでは、次に進めたいと思います。ただ今説明がありました実施方策をもとに、両校において、新校基本計画検討（案）を作成していただいております。副委員長である両校教頭から説明をお願いしたいと思います。項目が多岐にわたっておりますので、最初は基本理念から基本姿勢というところまで、まずお願いをしたいと思います。そして皆さんから御意見等を頂戴して、これを繰り返していきたいと思います。では、よろしく願いいたします。
伊藤副委員長 （岩槻新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について岩槻高校案を説明）
前島副委員長 （岩槻新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について岩槻北陵高校案を説明）
栗藤委員長 ありがとうございます。それでは論点について、事務局から説明をお願いします。
事務局 （岩槻新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について論点を説明）

栗藤委員長 事務局から論点について説明がありました。それも含め、論点も見失わずに、それぞれの案、アイデアについて御意見をいただければと思います。

伊藤副委員長 目指す学校について、岩槻高校案のイ、地域と協働したとありますが、これについてはここにはなくても良いかなと思いました。国際感覚と地元ということで一見矛盾しているようなのですが、まさにグローバルですよ、ただ、後にも出てきますので、イはなくても良いかと思います。一方でアとウ、特にウについては、本校はずっと小学校と連携した取組をやっておりますので、アとウは残していただきたいということと、そこに国際関係について関連付けていければと良いと思います。

栗藤委員長 案についての考え方を御説明いただきましたが、余りこれを除きましようというよりは、ここの部分が良いですよ、といった御意見をいただいた方が、事務局としては共通項が拾いやすいと思います。外すというと、選択肢が狭まってしまう感じがします。考え方としてはそういうふうに作業したいということのようですがよろしいでしょうか。それから一つ、進行からなのですが、今回このグローバル人材を育成するという大きな括りの学校は3つ立ち上がります。他に和光新校と秩父・皆野新校となります。3校の方向性が余りにも違うということも、基本方針の文言のうち2つの項目は全く同じように揃えていますので、和光新校は3番目に、国際に関する学科の中心的役割を担う学校を目指しています。岩槻新校は、地元の伝統産業を発信できるようなという記載、秩父・皆野新校は、観光資源を海外に発信できるようなというように、3番目だけ少しずつ違う表現になっています。逆に言えば他は共通なので、そういったことも念頭に置いてもらえればありがたいと思います。しゃべり過ぎてしまいましたが、そういうことを踏まえて、何か御意見があれば頂戴したいと思います。

渡辺委員 岩槻高校の渡辺です。今、お話にありました3校の違いというのが、我々のところに資料が届いた時点で決まっていたというか文言があるのですが、実際に今までの岩槻高校の役目としては、かなりの部分、例えば保護者が日本に会社を作ったり、あるいは転居したことで日本に入ってきた外国籍の子たち、その子たちを支えて日本の社会を支える一員としてサポートしていく、という役割が非常に強かったと思います。その中から例えば大学に進んだりする子も出てきていますが、今のお話ですと、そういう方向とは少し違って、何と言いますか、産業的な要請のところから、あるいは非常に上の政策から出てきているような感じがします。今までのように地元の子たちを預かって育てていくということよりも、こういう学校にして社会のこういう役割を担っていくということが最初に提示されてしまうのは、何か今までと流れが大分違うのかなと思います。その辺、どうお考えでしょうか。また、今、外国籍の生徒はどんどん増えています。本校でも今の1年8組では、5分の1が外国籍の生徒です。これからどんどん増えていって、3分の1、3分の2、あるいは半分となったときに、例えば群馬県の学校などですと、クラスの半分くらいがブラジル系とか、そういったこともあります。そうなったときに、地元の産業云々ということよりも、どう外国から入っていた人たちを、日本の社会に溶け

込ませていって、そして安定した国力を支えてもらう人たち、これから例えば労働力も欠如していくわけですけれども、ベトナムとかパキスタンとかいろいろなところから入ってくる人たちを、同じ日本で働いていく人たちとして取り込んでいくという考えは、この中には入っていないのでしょうか。その点も伺いたいと思います。

栗藤委員長 私の言い方が良くなかったのかもしれませんが、基本方針のところにかかれている文言が、それぞれ3つの学校の中で、新しい方向性として定めたものなんです。ですので、産業人材を育成するということをうたっているつもりはなくて、例えばこちらにもあるように、地域の伝統産業を海外に発信する、例えば先ほどお祭りの話が出てきておりましたし、あるいは人形作りとか、そういったところを想定してのお話です。ですから、産業人材を育成するというのは、違う分野になってくると思います。あくまでもグローバルな視点を取りつつも、地元の良いところを外に発信できるような、そういう発信力を持たせる、そういった学校の方向性を県としては考えています。それとは別に、今お話いただいたとおり、このエリアでは外国籍のお子さんがたくさん増えてきていて、それに対応していくという実際的な課題もあります。ですから、最終的にそういった地元のニーズ、埼玉県のニーズなのかもしれませんが、そこに対応していかなければいけないという部分も当然出てくるとは思います。ただ、先ほどの先生の言い回しですと、日本という社会にうまく外国から来た方々を適応させていくという機能みたいなものは、実際の教科指導や、この先項目が続きますけれども、生徒指導の問題だったり、様々なことにも影響してくるとは思いますので、そこはもちろん念頭に置きながら考えていく必要があると思いますが、まずは学校の大きな方向性としては、私たちが考えるグローバルというものを、それぞれの地域ごとに少しずつ特色を変えながら表現していきたいというところであります。岩槻の人形師を育成するとかそういったことは全く考えておりません。その点、御理解いただければと思います。

渡辺委員 前回、一番最初に県の方から説明でいらっしゃったときに、新校の基本方針について、あくまでもこれは仮に作ったものだとお聞きしたのですが、これらの文言あるいは内容等も、これから考え方が変わっていくということでしょうか。

栗藤委員長 先生方へ御説明させていただいたのは夏だったかと思います。そのときに同時に県民コメントを求めていましたし、また、10月27日と冒頭で申し上げたとおり、そこで、教育委員会としては正式に決定していますので、設置者としてこういったことを県民の方に約束をしているので、ここは揺るがさずに、中身を検討していただきたいというお話をさせていただいております。では、次に進みます。教科指導について、それぞれの教頭先生から案について説明をお願いします。

伊藤副委員長 (岩槻新校基本計画検討(案)のうち教科指導について岩槻高校案を説明)

前島副委員長 (岩槻新校基本計画検討(案)のうち教科指導について岩槻北陵高校案を説明)

栗藤委員長 事務局の方から論点の説明をお願いします。

事務局 （岩槻新校基本計画検討（案）のうち教科指導について論点を説明）

栗藤委員長 事務局から説明がありましたが、主にこの論点などに着目をしながら御意見をいただければと思いますが、先生方からこういう論点もあるんじゃないか、というような形で提起していただいても結構です。特によろしいでしょうか。では、後ほど全体を振り返る時間を取りたいと思いますので、このまま先に進みます。生徒指導の説明をお願いいたします。

伊藤副委員長 （岩槻新校基本計画検討（案）のうち生徒指導について岩槻高校案を説明）

前島副委員長 （岩槻新校基本計画検討（案）のうち生徒指導について岩槻北陵高校案を説明）

栗藤委員長 それでは事務局の方から論点についてお願いします。

事務局 （岩槻新校基本計画検討（案）のうち生徒指導について論点を説明）

栗藤委員長 事務局から論点ということで説明もございましたが、こういった論点が更に必要であるとか、ここに書かれている論点について御意見があれば頂戴できればと思います。

伊藤副委員長 岩槻高校案の具現化のエと、北陵高校案のアにあります、どちらも、教職員一人一人がカウンセリングマインドを身に付け、岩槻はスクールカウンセラー、北陵はSCと書いておりますが、この辺りがほぼ一緒なのかと思います。やはり教育相談というところがすごく大事で、岩槻高校は月1回なんですけれども、本当はもう少し予算を取っていただいて、新校では毎週とは行かないかもしれませんが、月2回ぐらいスクールカウンセラーとか、そういった相談ができる体制ができると、教員一人一人もちろん、研修等を積んでいくことも大事だと思いますが、専門家としてスクールカウンセラーがもう少し置けると良いと思います。

栗藤委員長 両方からほとんど同じような表現で出されている、恐らく、一番学校にとって大事なところだと思いますけれども、現在の取組を新校にどう繋げていくか、ということでしょうか。

松田委員 岩槻高校進路指導主事の松田と申します。今、伊藤教頭先生がおっしゃったカウンセリングマインドやスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーは、やはり私自身も岩槻高校で進路指導主事をやっていると申すのですが、本当に、進路相談の大半が、進路ではなくて家での悩みがほとんどです。ですので、今私が働いている進路指導室は、ほぼその悩みを聞く場であって、そこが解決されない限り、先へ進めないんですね。ただ、それを言える環境というのが、各学校で今、少なくなっているのだろうなということはずごく感じていて、それというのは、教室環境であるのか、先生方の雰囲気や態度であるのか、あるいはそれを作ってしまった学校自身なのか、すごく様々な要因があるとは思いますが、でもその高校に入るのを決めるのは御家庭だと思っておりますが、一生懸命に学校に通ってきている生徒を何とか変えていったり、何とかその先の進路を、と思った場合に、先ほど教頭先生がおっしゃっていたような、そういう相談ができる場が何回もあったり、そのことを理解した教員がその場にいるということはずごく必要で、だからこそ、教員自

身が学ぶ時間というものがなければいけないと思います。ですので新校になったときに、授業も大切だし、生徒の進路を考える時間も大切なのですが、教員自身もその生徒を思う、考えるような時間というのが、働き方改革等でも時間はできてきていると思うのですが、働いているその時間内に、そういったことを考えられるような場が少しでもできてくる、あるいは研修等が積めるような場があると、生徒をもう少し考える時間が増えて、最終的にはそこからソーシャルワーカーなどとうまく連携を図りながら、その生徒が何とか悩みを解決して、最終的な進路決定に結びついていくのではないかと思います。その部分の手厚さというのが、せっかく新校になるということで、これが売りになれば、不登校の生徒であったりとか、その他悩みが多くて他の場所から一家転住、あるいはいろいろな理由等で来た場合にも、受け皿であったりとか、あるいはこの地域にも海外の生徒も多いので、そういった部分での悩みというのも私も多く聞きます。ですので、そういった部分の解決の一つの手助けになるのではないかと感じました。

栗藤委員長 ありがとうございます。日々御苦労されている実践とともに、今後の新しい学校の在り方ということでお話をいただいておりますが、とても大事な視点なんだろうと思います。先ほどから別の委員からもお話があったように、岩槻高校は外国の方も多いということですし、ダイバーシティとか多様性の観点からも、手厚く生徒を見守っていく仕組みが作れると良いですね。他にございますか。よろしいでしょうか。では、このまま先に進みます。4番目の進路指導について、説明をお願いいたします。

伊藤副委員長 (岩槻新校基本計画検討(案)のうち進路指導について岩槻高校案を説明)

前島副委員長 (岩槻新校基本計画検討(案)のうち進路指導について岩槻北陵高校案を説明)

栗藤委員長 それでは事務局の方から論点についてお願いします。

事務局 (岩槻新校基本計画検討(案)のうち進路指導について論点を説明)

栗藤委員長 それでは御意見を頂戴したいと思います。

松田委員 生徒一人一人の進路希望に応じたきめ細かな指導ということで、両校とも記載していますが、やはり今、進めているキャリアパスポートを中心に、どんどん進めていく必要があるかと思います。先日、徳島県の教育委員会の方からいろいろな要望があり、視察で県立高校の教頭先生と教諭の方が見えて、そういったお話をさせていただき、徳島県の教育委員会でも、是非本校での取組を進めていきたいということもあったのですが、簡単に申し上げますと、本校では生徒一人一人の第1志望の進路実現のために、4月の段階で二者面談シートというものをを用いて、それを春休みの課題にして、遠慮なく全てを記載してもらって、新しくなった担任に提示し、そこで進路指導という形になるのですが、生徒に思いや反省だったり今後の決意を書いてもらったり、そのシートには最後に、保護者からのコメントをもらう欄が付いていて、ですので、保護者との連携のツールにも実はなっていて、それをしっかりと活用していくことによって、まず生徒が何を考えているかということが

見えてくると思います。保護者も言いたいことが少しはあるので、その部分に書かれているものを基に、本校では6月に三者面談を行うので、そのときに、海外であったりとか、他のものを見据えているという場合には、例えばグローバルリーダー育成のプロジェクトであったり、あるいは8月くらいに、今はコロナで行けなくなってしまうと思いますが、オーストラリアの海外事業体験学習であったりとか、そういう学習に積極的に声をかけていくことによって、国内外で活躍できるグローバル人材の育成、あるいは海外に興味を持たせていくということが少しずつできるのではないかと思います。そういったものを積み重ねていくことによって、それが一つの自分自身のキャリアパスポートにどんどんなって行って、それを最終的に自分自身が持っていることによって、最終的にそれを見返したことによって、自分自身がどんな進路選択をしていくことが良いのかというのが見えてくるのだと思うので、そういった今まで通じてやってきた活動をやっていくことが、今までよりもより良くしていく一つになるのではないかと私は思いました。あとは、高大連携は、私自身が獨協大学との絡みがあるので、現在行っている活動の一つではあるのですが、外国語教育といえば非常に強い学校ではあるので、そういった活動を岩槻北陵と共に手を取り合ってやっていければ、岩槻北陵にも多種多様な、様々な国から来た生徒がいたはずですし、岩槻高校にもいるし、そういった生徒への理解を深めて行って、その生徒がより学校内で活躍できるような、本校ですと日本語学習の支援であったりとか、そういったサポートも来てくださっているのです、そういった部分の良さは出していけるのではないかと思います。そういった子たちが日本語を理解していけば、更に国内外で活躍できる人材の育成というところにつながると思うので、まとまりませんが、今やっている取組の御紹介ということで、もしよろしければ新校にも取り入れていただけると有り難いと思いました。

栗藤委員長 ありがとうございます。やはり、今現在取り組まれていて手応えを感じているとか、生徒の反応が良いとか、保護者と連携できているとか、そういった取組は、是非積極的に新しい学校にも受け継いでいけると良いと思っています。他に御意見はございますか。

渡辺委員 質問をよろしいでしょうか。論点のところにある、海外との連携というのは、具体的には、今松田委員からあったような、今まで本校でやってきたような、例えばグローバルリーダー育成プロジェクトであったりとか、あるいはオーストラリア派遣で生徒に体験をさせたりあるいは交流会を開いたり、大学からの講師を招いてグループ活動をさせたりとか、そういうことは違って、海外との連携というのは、例えば外国の大学と何か連携を取ったりなど、そういったことも含めているのでしょうか。なかなかイメージが湧かないので、具体例を挙げていただけると助かります。

事務局 まず、渡辺委員がおっしゃったとおり、これまでの活動も当然引き継ぎながら行っていただきたいところはもちろんでございます。それにプラスして、できればなのですが、こちらはまだ可能性を探ってははいないのですが、海外の大学等とも連携して、そこに進学するということではありませんが、そんなところの可能性も

ありつつ、イメージしていただければ良いと思います。もちろんこれまでやってきたことも当然継続してやりつつ、プラスして、国内外で活躍できるグローバル人材の育成を掲げておりますので、当然海外の大学への進学も含めて、検討というか模索していただければと事務局としてはイメージしております。

渡辺委員 今のに関連してですが、海外との連携と言いましても、普通に我々が獨協大学に行くとかそういうのは全然違って、ノウハウであったり、あるいは予算であったりいろいろなものが必要となります。県の方で、海外との連携とうたうのであるならば、きちんとした予算措置が今後、例えば新校に与えられるのか、あるいはそれに対してのサポート、例えば新校からグローバルリーダー育成塾に優先的に何人取るとか、そこまではなくても、何かしらのサポートがなければ、文言だけ与えられてあとは先生方でやってくださいと言っても、どんどん負担が増えるばかりで、きちんとした手当を県で考えていただけるかどうかを伺いたいと思います。

事務局 予算の方は、はっきりとここで確約はできないというのが正直なところですが、当然御要望があれば、申請することは可能ですので、可能な範囲で、夢を見るではないですが検討していただけると良いのかなと。確かにグローバルリーダー育成塾への優先についても、私からははっきり言えないのですが、そういったことも含めて、検討できればと思います。また、今回、国際に関する学科を3校立ち上げますので、中心となる学校を和光新校、和光国際高校には現在外国語科がありますので、そこが国際に関する学科の中心となるようなという基本方針も掲げておりますので、そういったところで、和光新校で取り組んでいることを遠隔教育などでつなげて、和光新校でやっていることを岩槻新校に還元もできるのかなと考えおります。そういった連携も深めていければと思っていますので、全て岩槻新校でやっていただくとは思っておりませんので、うまく3校が連携しながら、得意分野等あると思いますので、新校の良さを生かしてやっていければと考えております。

渡辺委員 1点だけ要望なのですが、現在岩槻高校で進めている、例えばオーストラリアとの交流が7年続いておりますが、毎年、教員の派遣費用というのがばかにならないと。非常に予算的に大変です。生徒の方も裕福な家庭がそんなに多いわけではありませぬので、非常に集めるのに苦労しております。海外との連携をうたうっていく学校であるならば、やはり事前に派遣される教員の旅費とかそういうものの手当をきちんとしていただければと、優先的にしていただけると助かるなと思います。

栗藤委員長 ありがとうございます。基本的に、県教育委員会も先生方にこうやってくれと、お願いとただ球を投げるのではなくて、私たちも最大限の支援をしたいという思いでいます。ですので、今日も皆さんからいろいろお知恵をいただきながら、私たちも検討しますし、今日の議論は基本的には、今日は時間の限り御意見をいただきますが、最終的にそれぞれの教頭先生が御意見等を校内で調整してまとめていただきまして、私たちのところに届けてもらうという形を取っております。校内で紹介があったかどうか分かりませんが、12月1日から両教頭先生とも当課の一員になっております。魅力ある高校づくり課の主任管理主事という兼務発令をされておりますので、私たちと一緒に仕事をする事になっております。皆さんも同じレベル

でというのはなかなか言いにくいですが、是非、良いものは取り上げたいと思いますし、良いアイデアがありましたら、忌憚なくおっしゃっていただければ、検証させていただきたいと思っています。それではよろしいでしょうか。そうしましたら、
(5)の生徒募集についてお願いいたします。

伊藤副委員長 (岩槻新校基本計画検討(案)のうち生徒募集について岩槻高校案を説明)

前島副委員長 (岩槻新校基本計画検討(案)のうち生徒募集について岩槻北陵高校案を説明)

栗藤委員長 事務局の方から論点についてお願いします。

事務局 (岩槻新校基本計画検討(案)のうち生徒募集について論点を説明)

栗藤委員長 この辺りは、新校にこだわらなくても、現在のそれぞれの学校の取組にも様々な広報活動があるかと思います。ちょうどこの部屋で作業されたのか分かりませんが、学校案内の表紙のイラストがありますね。すごく良いのを作られていると思います。こういうノウハウを是非、実際に新校ではPRを、前年度くらいがかなり精力的にやるということが求められてきますので、そういったところを意識して準備をしていくことが良いと思います。今の児玉新校と飯能新校のことを少し紹介させていただくと、特に飯能新校は、とてもSNSを使ったメディア発信が上手で、LINEとInstagramを上手に使っています。もちろん、YouTube動画も当然あります。私もよく知らなかったのですが、LINEは一度登録すると、広告的なものがどんどん来ると思います。そういったものを上手に発信して、Instagramも同様です。いつの間にか登録しているだけで他の情報が届くので、そういったところも、今後のメディア展開には参考になるかと思い、紹介させていただきました。このところで何か御意見があればお願いします。それでは、最後(6)のその他についてお願いいたします。

伊藤副委員長 (岩槻新校基本計画検討(案)のうちその他について岩槻高校案を説明)

前島副委員長 (岩槻新校基本計画検討(案)のうちその他について岩槻北陵高校案を説明)

栗藤委員長 STEAM教育とか、RをつけてSTREAMという言い方もあるようですし、高等学校に求められているところはあるのですが、割と理系の要素が強いと思うので、現状、岩槻高校も岩槻北陵高校も、そんなに理系理系という感じの方向性は、外から見てみると余り見えない感じがあるのですが、ただ、もちろんそういった希望を持つ生徒もいるかもしれませんが、これまでの取組に、そういった視点、観点を持つということも大事なこともかもしれないと思っております。この部分で御意見、御質問等はございますか。

渡辺委員 外国人特別選抜ですけれども、この選抜で入学してくる子は例年数人なのですが、やはり8組を中心として、普通科もそうなのですが、隠れ外国人、要するに実は外国籍なんだけれども、もう3年以上経っているので、普通に入ってくる生徒、まだ日本語が不完全である生徒も結構います。多分岩槻北陵高校にもたくさん

いると思います。そういう子たちへの日本語指導は本当に今大変です。今後どんどん増えていくと思いますし、もしこの方向で新校をアピールしていくのであるならば、新校は、そういう外国から来た生徒たちの対応ができるんだということを、前面に出していく方が、余程注目されるのではないかと思います。現在、本校では韓国語、スペイン語、中国語と三つの第二外国語がありますが、必要に応じて日本語もあります。結局国語の教員がやっています。ノウハウがない状態で、教科書だけ買って指導していますが、やはりこれでは駄目ですよ。年間 35 時間だけの先生が来ていただいて、放課後だけとかではなくて、やはり、専門の日本語の教員は埼玉県内に今何人いるか御存じですか。日本語教師と呼ばれている方が。初めてでも良いから、新校に置いていただきたいなと思います。それぐらいの気持ちを持っていただければありがたいと思います。

栗藤委員長 なかなか、いろいろな学校で言われているお話で、現状、岩槻高校も岩槻北陵高校でもそうかもしれませんが、外国籍の子や外国人特別選抜で入ってくる子、あるいはもう長く日本にいたとしてもまだ日本語に課題がある生徒、そういった子たちへの対応というのはしっかりやっていかなければいけないと思いますし、今委員がおっしゃったように、それを売りにしていく、強みにしていくということは、一つのアイデアだと思います。先ほどから事務局からも話をしているように、予算的などところのお約束はなかなか難しいですけれども、ただ、そういった現状があり、そういった状況をうまく強みとして持っていくためには、私たちもバックアップをしたいと思っています。先ほど、第二外国語の話が出てきましたが、新校、今の岩槻高校もそうかもしれませんが、新校のライバルは、東部地域に数多くある、外国語科を置いている学校になると思います。少し内容は違うかもしれませんが、特に国際に関する学科と外国語科は何が違うのだろう、という辺りも、実は先日は、和光新校で会議を持ちましたが、そこでは結構大きな論点になっていました。私たちが考えているところでは、外国語科というのは外国語を教えることが中心で、主に英語科の先生たちが関わっていかれるかと思っています。国際に関する学科の場合には、もっと他の教科目にも広がっていくようなことがあるかなと思っています。まさに今、岩槻高校が国際文化科で取り組んでいるような内容が、私たちから見るとモデル的なものだと考えています。だからこそ是非、今の取組をしっかりと後押しして、良い新校にしていけたらと考えているところです。その他、前に戻っていただいても結構ですが、御意見や御質問があればお願いします。よろしいでしょうか。それぞれの教頭先生に御意見を寄せていただければ、私たちのところに届くことになっておりますので、今日言い足りないところ、こういう場ではなかなか言えないこともあるかと思いますが、何かありましたら言っていただければと思います。

伊藤副委員長 私も実は県の一員なのですが、県の方への要望です。岩槻新校は本校を使うということですが、よく言われるのが、もうちょっと修理、修繕をしてくれないかと。雨漏りはある、ペンキは剥げているので事務室が困っていました。事務室、校長、教頭から本当になんとかしてくれと県の財務課に言っているとは思いますが、

お約束いただけないことは私も分かっていますが、新校に向けて、はっきり言って北陵高校の方がきれいなのかと思いますが、もう少しいろいろ直しとかそういった費用とかを、数年かけてで良いので、なんとか予算措置していただければと思います。本当にこの後、見ていただきたいくらいですが、天井に穴が開いていて雨漏りしている、1階の生徒昇降口のペンキが剥げている、そういう状況なので、もう少しそこをなんとか、私も県の一員ということですので、なんとかしていきたいと思っています。

栗藤委員長 要望はしっかり受け止めます。これまでの第1期実施方策でもそうですが、これから開校する新しい学校に注目していただきますと、県がどんな形で予算等を投入しているかというのも見えてくるのではないかと思います。児玉新校も飯能新校も、大変良いホームページや動画を作っていますので、施設関係については新しくなった双方の学校を御覧いただければと思います。それが、この次の第2期実施校の将来の姿になるのではないかと思います。

渡辺委員 今の意見に加えて、是非、車椅子で2階以上に上がれるような形にしていきたいと思います。

栗藤委員長 本日はそういった関係課の職員も来ておりますし、是非検討させていただきたいと思っています。私たちは教頭先生を通じて日常的にいろいろなところに窓口があるのですが、この学校の進行部分につきましては、魅力ある高校づくり課が関わっていきます。場合によっては他課とのつながりなども、私たちを通じてお話をさせていただくということもありますので、遠慮なく、この二人の主任管理主事に御相談ください。それでは、協議を終了したいと思います。